



外国出張報告書

平成 26 年 10 月 9 日

1. 出張国名 ガーナ
2. 出張月 平成 26 年 9 月
3. 出張目的 アフリカ稲作振興実証栽培試験の生育調査：B

4. 成果の概要

カウンタパートであるサバンナ農業研究所の稲作部長と、研究の進捗状況、研究成果の公表を目的としたワークショップの開催、ガーナの稲作研究における今後の展開について打ち合わせをした。

インフレの進行により研究費が不足しているが、研究は順調に進捗しており、ワークショップについては、ステークホルダーが揃うタマレで、農繁期を外した 4、5 月ないし 11 月以降の開催が適当である。

また、ガーナの稲作研究の重点目標は、

- 1) 気候変動対策としての極早生および極晩生品種の育成、
- 2) 畑栽培における補助灌漑、
- 3) ポストハーベストにおける品質管理、
- 4) 農民の需要条件を満たす技術の開発とされている。

なお、試験の進捗状況については、プロジェクトサイトを視察し、JIRCAS が担当する試験、SARI が担当する実証栽培ならびに両者の連携試験がスムーズに進捗していることを確認した。